

日本原水協活動交流ニュース

発行：原水爆禁止日本協議会 電話：03 - 5842 - 6031 2019年
FAX：03 - 5842 - 6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com 12月23日発行

【宮城・長野】県原水協が被災地にカレンダー届ける

みなさんから寄せられた被災地贈呈募金で、宮城県原水協と長野県原水協が被災地にちひろカレンダーを贈呈しています。宮城県原水協の川名直子事務局長、長野県原水協の丸山稔事務局長からの報告を紹介します。

<気仙沼>大島小学校・大島中学校

12月6日、気仙沼の大島小学校・中学校に届けました。中川理事と川名事務局長、気仙沼市在住で平和行進でもお世話になっている菅原さんとともに訪問しました。小学校では校長先生に、中学校では教頭先生に対応していただきましたが、お二人とも自宅が被災していました。「毎年カレンダーをいただいているが、大変生徒たちが喜んでいきます。」とのことでした。大島は橋も完成し、届けるのも大変便利になりました。



<南三陸>病院・志津川保育所・伊里前保育所



12月18日、まず南三陸町病院に届けました。地元の西条さんに連絡を取っていただき、婦長さんにお渡ししました。看護師さんや患者さんたちに大変喜ばれているそうです。続いて、志津川保育所と伊里前保育所へ。「園児たちもちひろさんの絵が大好きです」と喜んでいただきました。最後に、地元の避難所運営などで頑張った方のお宅へ。平和行進に昔参加されていた大先輩でした！



園児たちもちひろさんの絵が大好きです」と喜んでいただきました。最後に、地元の避難所運営などで頑張った方のお宅へ。平和行進に昔参加されていた大先輩でした！

<塩竈>浦戸小・中学校

12月19日、離島にある浦戸小・中学校へお届けしました。中川理事、坂病院友の会の庄司さんと塩釜汽船に乗って届けました。教頭先生が対応してくださいましたが、何と広島の前水爆禁止世界大会に参加されたことがあるそうです。ちひろの絵もお好きなようで、カレンダーの中の1枚の絵が自宅にある、とおっしゃっていました。小中学生全員にカレンダーを配布していただいています。写真の後方、家庭科室に昨年のカレンダーがありました！



「すてきなカレンダー嬉しい」「気持ちが明るくなる」と大好評 ——長野の水害被災者、被災学校へちひろカレンダー贈呈400本超

最初に長野市内の床上・床下浸水を受けた小中学校5校を、長野市教組、長野市原水協、長野県原水協の役員が訪問してカレンダーを贈呈しました。最も被害の酷かった長沼小学校は、まだ他の小学校に間借りで授業を再開していて、学校に戻れるのは仮教室ができる年明け1月ということで、元の学校に戻った1月にカレンダーをお届けすることにし、豊野中学校は、1階が全滅でまだ使えず、工事で通路が迷路のようになっていて、教頭が「申し訳ないが教室は臨時でいろんな部屋を使っているのでカレンダー掲示は無理、職員室分だけいただきます」と残念そうに話すなど、被害の大きさを改めて感じました。対応してくれた教頭先生はどこでも「ちひろさんの絵大好き」「すてきなカレンダーですね」「職員会議で紹介したら歓声が上がりました」と喜んでくれました。



松代中学を訪問する、左から長野市原水協会長の大塚さん、県原水協丸山事務局長、松代中教頭先生、県教組長水支部の阿藤さん

学校への贈呈は、今後のお届け分、浸水を免れた被災地の学校も含めて全体で8校に140本です。

さまざまなボランティア活動と繋がって地域の被災者にも届けることができます

仮設住宅や地域の被災者へどのように届けるか思案していましたが、私も参加している「ウェルカム3才児プロジェクト」という地域のボランティアで知り合った仲間が災害支援でも頑張っていることがわかり、協力が得られることになりました。被災者が支援物資を持ってくる市民ボランティアセンターに75本置いてくれました。また、被災者の見守りや相談活動をしている専門的なボランティアの方が、仮設などの訪問時に渡せる「すてきな手土産になる、嬉しい」と当面50本受け取ってくれるなど、さまざまつながりを活かして私たちだけではなかなか手の届かない地域や仮設住宅に届けられるコースが見えてきました。

新聞記事で知った地域の福祉施設を運営する企業がやっているボランティアセンターに突然のお願いで訪問したら、「カレンダーを欲しがっている人もいました」と快く受けってくれました。



日本共産党長野市豊野地区の災害支援センターを訪問する、中央が自らも自宅が浸水しながら支援の先頭に立つ日本共産党長野市議の佐藤久美子さん

日本共産党のボランティアセンターでも、豊野ではカレー昼食会でお願ひしたら約130人いた被災者の中で、「ちひろさんの絵は好きだよ」「この絵は気持ちが明るくなる」とあっという間に37本受け取ってくれて、その場で「ヒバクシャ国際署名」も書いてくれました。今後長沼地区の共産党センターの「青空市」、被災した福祉施設、保育園などへの訪問を考えています。

募金活動などご支援ありがとうございました。今後も被災地に寄り添い支援を続けます

全国の皆さん、ご協力を本当にありがとうございました。長野の被災地はますます寒くなり、本格的な雪の季節、リンゴ畑の泥かき、リンゴの片付け、家の片付け、被災ゴミの処理などやることは山ほどあり、まだまだボランティアが必要な状況なのに、年越し正月などそれも困難になっています。さらには、ここに住むのか、この際移住するか、など深刻な悩みがあります。被災地はまだまだ困難だらけ、また新たな困難も生まれています。私たちはこれからも被災地に寄り添って、できる限りの支援を続けていきたいと考えています。全国の皆さん、今後も一層のご支援をお願いします。